大藤小学校

「自ら考え，課題を解決できる児童の育成」
～つなぐ，学びあう少人数での学習集団づくりを通して～

Ⅰ　研究内容

1　研究内容と方法

（1）研究内容

・少人数や小集団における効果的学習方法（ICT の活用も含む）を取り入れた授業実践および授業公開の実施をした。（一人一実践の取り組みを絡める）

・児童の実態把握（ＮＲＴ検査・Q-U・アンケート）と K-13 簡易法を用いた Q-U での分析とアタックシートを活用した集団づくりを行った。

・学びを促す家庭学習での環境づくりをした。

・ICT を活用したカリキュラムづくりと学校や地域の良さを外部へ発信した。

（2）研究方法

・全職員の共通理解を図るために，全体研究会を中心に研究を行い，職員の共通理解のもと取り組むようにした。

・外部講師を招いて，ICT に関する理解を深め，実践力を高めた。

・各自，一人一実践を行うと共に，授業改善についての研究を行った。

・ＮＲＴ検査や Q-U，アンケートを使い児童の実態を把握し，それを様々な場面で生かした。

（3）検証方法

・２回の学習・生活アンケートと Q-U での数値面での評価を見た。

・授業実践での児童の様子，児童のノート等の記述を見た。

2　研究実践

（1）理論研究

９月「edutab ですぐに実践できること」

講師　八代　一浩教授（山梨県立大学）

（2）実態調査

① NRT 検査の分析（５月）

各学年・各教科ごと，学年平均と全国平均を出し，今年度特に力を入れて指導すべき内容を明らかにすると共に，どのような手立てを講じていくのかを検討した。

②学習・生活アンケートの実施（５月・２月）

アンケートを５月と２月に実施した。５月の結果を受けて各クラスで取り組み、２月には，比較の分析を行い，成果の確認と今後の課題を探る資料とした。

③ K-13 法簡易版による Q-U 検査の分析（５月・１１月）

４月と 11 月に行った Q-U 検査の結果を受け，学年ごとに K-13 法簡易版を用いて分析を行った。全校のプロット図を作り，別の視点も交えた。全職員で児童で共通理解を図り，児童理解に努めた。

（3）授業実践

ア　研究授業

・第５学年　坂本　奈穂教諭　総合　「大藤は最高のふるさと」

・第１学年　廣瀬　尚子教諭　国語科　「しらせたいな，見せたいな」

イ　授業公開（一人一実践）

・第２学年　有井　哲也教諭　算数科　「かけ算」

・第３学年　藤原　和美教諭　国語科　「食べ物のひみつを教えます」

・第４学年　川野　和昭教諭　算数科　「面積のはかり方と表し方」

・第６学年　荒井　祐貴教諭　算数科　「比例と反比例」

・あおぞら学級　小林由紀子教諭　算数科　「ひろさくらべ」

（4）日常的な取り組み

学年に応じた，系統的な学習規律を確認し，それを「大藤小スタンダード」として徹底を図った。学習用具の準備から使用するノートの目安等，各家庭へ周知を図るとともに，児童が自分たちで意識できるよう学級掲示等に加え，個人用のファイルにして６年間持ち上げるようにした。

Ⅱ　研究内容

1　成果

1）基礎基本的な知識及び技能を習得させるために朝学習プリントづくりと家庭学習の充実に取り組んだ。研究授業や一人一実践，日々の授業実践を通して思考力・判断力・表現力等を育み，主体的に学習に取り組む児童の育成に努めた。Q-U の分析を年２回（5 月と 11 月），すべての学年と全校で行い，児童一人ひとりの実態を丁寧に把握し，それを生かした授業を心がけることで主題に迫ることができた。

2）めあてを必ず提示し見通しをもたせる。個・グループ・全体を使い分け，いろいろな場面で自分の意見を発表し，協働して学習し，積極的に対話しあう学習形態の工夫をする。ノートにめあてと考え方，学習のまとめを記述させることを徹底した。これらの積み重ねにより自ら考え課題を解決する児童の姿が授業のみならず，学校生活全体でみることができた。

3）５年生の授業では，TV 会議システムを使用し，他校と発表しあうことで多様な考え方に触れる機会を設けた。他校から自分たちでは考えつかなかった考えやアドバイスをもらった。それにより調べ学習の内容が深まり，よい学習活動になった。

　１年生の授業では，最初に相手意識を明確にし，一人ひとりの課題に対応するため iPad を活用した。児童は，自分の調べたい物の写真を撮り，見つけたことを iPad に書き込んだ。それを使い，友だち同士で見つけたことを伝え，アドバイスをもらった。それにより話し合い活動がスムーズになった。また，少人数を生かして教師が一人ひとりに寄り添い，個に応じてのアドバイスを行った。調べたものの実物も全員分用意した。それによりスムーズな意見や感想の伝えあいにつながった。少人数だからできるさまざまな工夫を行うことで自ら考え，課題を解決できる児童の育成に迫れた。

4）家庭学習ノートを全校で統一したり，一階の廊下の前と各教室にノートを掲示し，児童に参考となる事例を示したりした。それにより児童の学びの質（内容），量（アンケートの数値）ともに向上が見られた。

5）９月に edutab の考案者である山梨県立大学の八代一浩先生を講師に招いて「すぐに実践できること」をテーマに学習会を行った。いろいろな活用法を教えていただき，授業実践に生かすことができた。そして，実施したことを ICT 活用表にまとめることができた。

2　課題

1）iPadの導入，他学年との交流，TV会議システムを使用した他校との交流などでいろいろな機会を設け小規模校のデメリットを減らす取り組みを行った。さらにいろいろな方法を今後も行っていく必要がある。

2）ICT の活用については，昨年度洗い出した単元や教科を中心に実践を行い，ICT 活用表にまとめた。来年度は，活用表を参考に再度授業実践を行い研究を深めていきたい。

Ⅲ　成果物

・研究授業及び公開授業の指導案
・NRT 検査の分析結果（２～６学年）
・全校プロット図（２回分）
・学習・生活アンケートデータ（２回実施）
・Ｑ－Ｕ検査の分析結果，アタックシート
・ICT 活用表

（研究主任　川野　和昭）